

県政モニターアンケート調査結果（速報）について

1 概 要

新たな総合5か年計画策定における施策検討の基礎資料とするため、県政モニター制度を活用し、県民の意識調査を実施しました。

（県政モニター制度の概要）

- ・ 県政に県民の声を反映する目的で平成24年度から開始（今回が第1回目調査）
- ・ 県内全域の1,232人がモニター登録（無作為抽出1,130、公募102人）
- ・ モニターの任期は2年間

2 調査内容

（1）実施方法

- ・ 郵送又はインターネットでモニター1,232人にアンケートを実施
- ・ 新たな総合5か年計画の大綱を添付

（2）調査期間

平成24年7月25日（水）～8月6日（月）

（3）設問

- ① 大綱における「時代の潮流と課題」から、今後特に重要と感ずること（4問）
- ② 大綱における「めざす姿」から、現状との隔たり（ギャップ）を感じ、最優先で取り組むべきと思うもの〔19問〕

（4）回収状況

アンケート回収数 879人（回収率71.3%）

※ 8月9日（木）時点 速報

新たな総合5か年計画について

平成24年7月25日(水)から8月6日(月)にかけて、県政モニター1,232人に「新たな総合5か年計画大綱」についての考えを調査しました。

- 1 長野県の現状と課題(時代の潮流と課題から)〔問12～問15〕
- 2 めざす姿と現状との隔たり(ギャップ)を感じ、最優先で取り組むべきと思うもの〔問16～問20〕

1 長野県の現状と課題

問12 人口減少社会において、今後特に重要なこと

■「若者の定住促進」が約5割、次いで「産業の振興」が約4割

① 「若者の定住促進」	49.6 %
② 「地域を支える産業の振興」	40.3 %
③ 「少子化に歯止めをかける対策」	36.6 %
④ 「高齢者を支える仕組み」	14.7 %
⑤ 「移住者の受入」	14.4 %
ほか(複数回答・2つまで)	

問13 信州らしいライフスタイル(暮らし方)のイメージ

■「豊かな自然と触れあう暮らし」が約6割、次いで「地域の絆」、「新鮮な農産物」が3割弱

① 「豊かな自然と触れあう暮らし」	57.7 %
② 「地域の絆により支えあう暮らし」	26.5 %
③ 「地元の新鮮な農産物を味わえる暮らし」	26.1 %
④ 「時間的なゆとりのある暮らし」	20.7 %
⑤ 「美しい景観に囲まれた暮らし」	19.9 %
ほか(複数回答・2つまで)	

問14 長野県経済の活力維持のために特に重要なこと

■「地域資源を活用した地場産業の育成」が3割超、次いで「成長分野の開拓」、「人材育成」が約3割

① 「地域資源を活用した地場産業の育成」	34.0 %
② 「健康や環境など新たに成長が見込まれる分野の開拓」	31.5 %
③ 「産業を担う人材の育成、確保」	30.6 %
④ 「国内外の観光客などの受入」	21.7 %
⑤ 「開発力・技術力の向上」	20.7 %
ほか(複数回答・2つまで)	

問15 社会を支える仕組みについて、今後特に必要なもの

■「持続可能な社会保障制度」が7割超、次いで「国や地方の財政構造」が約5割

① 「年金、医療などの持続可能な社会保障制度」	72.7 %
② 「国や地方の安定した財政構造」	50.3 %
③ 「食料の安定確保」	18.9 %
④ 「大規模災害への備え」	14.3 %
⑤ 「エネルギーの安定確保」	13.9 %
ほか(複数回答・2つまで)	

2 未来のめざす姿

- ※ 問16から20は、20年後の長野県のめざす姿を示した中で、現状との隔たり(ギャップ)を感じ、最優先で取り組むべきと思うものを選んでいただきました。
- ※ 以下、各問のタイトル名は大綱時点の案を()書きで表示しています。

テーマ1 (世界への貢献)

問16-1 (世界をリードする最先端産業)

■「企業の技術や研究開発力、提案力」が3割弱

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| ①「個々の企業が技術や研究開発力、提案力を高めている。」 | 27.0 % |
| ②「健康、環境など新たな成長分野が次々と育っている。」 | 25.7 % |
| ③「アジア新興国など、世界中を相手にした活力ある経済活動を行っている。」 | 19.0 % |
| ④「商業・サービス業や建設業といった地域に根ざした産業が活性化している。」 | 13.0 % |
| ⑤「新たな創業が活発化している。」 | 8.5 % |

ほか(単数回答)

問16-2 (世界品質の農産物)

■「収益性の高い農業による若者の就農」が約3割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|------------------------------------|--------|
| ①「収益性の高い農業が展開されることにより若者の就農も増えている。」 | 27.5 % |
| ②「本県オリジナルの品種・品目の開発・普及が進んでいる。」 | 22.8 % |
| ③「品質の高い農畜産物のブランドイメージが国内外で認知されている。」 | 21.4 % |
| ④「農地の集約化や技術開発により農業の低コスト化が進んでいる。」 | 9.0 % |
| ⑤「林業が地域を支える産業として発展している。」 | 7.5 % |

ほか(単数回答)

問16-3 (世界に選ばれる信州の魅力)

■「ブランドイメージの国内外への認知」が約4割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|--|--------|
| ①「信州の魅力がブランドイメージとして国内外に広く知られている。」 | 38.6 % |
| ②「信州のすばらしさが知れわたり、国内外から多くの人々が訪れている。」 | 32.8 % |
| ③「リニア中央新幹線や高速道路網など高速交通網が充実し多くの人々が訪れている。」 | 10.4 % |
| ④「海外からの教育旅行が活発になっている。」 | 8.8 % |

ほか(単数回答)

問16-4 (知の拠点)

■「高度な専門的知識や技術を持った人材の集積」が約3割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|------------------------------|--------|
| ①「高度な専門的知識や技術を持った人材が集積している。」 | 30.3 % |
| ②「国内外の研究開発型企業が進出している。」 | 24.3 % |
| ③「県外からの若者の就職が活発になっている。」 | 17.5 % |
| ④「大学などの高等教育機関が充実している。」 | 14.2 % |

ほか(単数回答)

テーマ2（ゆとりのライフスタイル）

問17-1（楽園信州）

■「美しい景観」が約3割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「美しい景観が県民の高い意識と参加により形成されている。」 | 27.8 % |
| ②「地域資源を活かした魅力的な地域と大都市圏の人々との交流が活発化している。」 | 26.7 % |
| ③「ゆとりを求めて長野県へ移り住む人や二地域居住する人が増えている。」 | 24.8 % |
| ④「地域の祭りなどの伝統文化が脈々と受け継がれている。」 | 14.7 % |

ほか（単数回答）

問17-2（感動との出会い）

■「文化や芸術」が約4割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|-----------------------------------|--------|
| ①「多くの人々が文化や芸術に親しんでいる。」 | 38.6 % |
| ②「快適で賑わいのある街を多くの人々が楽しんでいる。」 | 28.3 % |
| ③「多くの人々が個々の関心や適性に応じてスポーツを楽しんでいる。」 | 20.7 % |

ほか（単数回答）

問17-3（自然のお裾分け）

■「自然エネルギーの地産地消が進み、国内外のモデルとなっている」が約4割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|--|--------|
| ①「自然エネルギーの地域での生産・消費が進み、国内外のモデルとなっている。」 | 41.8 % |
| ②「多くの人々が環境への負荷の少ない生活を送っている。」 | 33.8 % |
| ③「省エネなどの取組みにより温室効果ガスの排出量が大きく減少している。」 | 13.5 % |

ほか（単数回答）

問17-4（どこでもドアの信州）

■「防災・減災基盤」が2割超

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「地震や土砂災害などに対する防災・減災基盤の整備が進んでいる。」 | 23.3 % |
| ②「誰もが簡単に利用できる情報通信サービスが快適な暮らしを支えている。」 | 21.6 % |
| ③「住民同士が支え合いながら迅速に避難でき、被災しても早期に立ち直ることができる。」 | 20.7 % |
| ④「予約制の乗り合いバス・タクシーの運行など地域の状況に応じた移動手段が確保されている。」 | 15.2 % |
| ⑤「犯罪の未然防止活動などによって犯罪の起きにくい社会となっている。」 | 9.7 % |

ほか（単数回答）

テーマ3（居場所と出番）

問18-1（100%の自己実現）

■「失業者の再就職など能力を仕事に活かせる機会」が3割超

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|--|--------|
| ①「失業者の再就職など能力を仕事に活かせる機会が平等に持てる社会となっている。」 | 35.4 % |
| ②「女性の活躍が地域経済・社会を活性化させる大きな役割を担っている。」 | 20.3 % |
| ③「就職後も多くの人々が職業能力の開発に努めている。」 | 13.5 % |
| ④「自治会やボランティア等による住民の主体的な活動が行われている。」 | 13.3 % |
| ⑤「ひきこもりなどの若者に対して自立に向けたきめ細かな支援が行われている。」 | 7.6 % |
- ほか（単数回答）

問18-2（子育て先進県）

■「夫婦ともに仕事を続けながら子育ての時間を確保」が3割超

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「夫婦ともに仕事を続けながら子育ての時間を十分に確保できる。」 | 32.7 % |
| ②「地域の人々と関わりを持ち支え合いながら子育てができる。」 | 18.1 % |
| ③「安心して出産できる医療が確保されている。」 | 14.3 % |
| ④「低年齢児や病児保育など多様なニーズに合った保育サービスが提供されている。」 | 14.3 % |
| ⑤「24時間対応可能な小児救急などの医療サービスがどこでも提供されている。」 | 11.3 % |
- ほか（単数回答）

問18-3（あんしん社会）

■「高齢者が住み慣れた場所で自分らしく暮らしている」が約5割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「医療や介護の一体的な提供などにより、高齢者が住み慣れた場所で自分らしく暮らしている。」 | 51.6 % |
| ②「地域で声を掛け合いながら互いを気遣い、一人暮らしの老人も安心して暮らしている。」 | 29.7 % |
| ③「障害者は、自ら選んだ場所で必要な福祉サービスを受けることができている。」 | 9.6 % |
- ほか（単数回答）

テーマ4（世界一の健康長寿）

問19-1（世界一の健康づくり）

■「食を通じた健康づくり」が4割弱

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「野菜を多く摂り、塩分を控えるなど県民が食を通じた健康づくりに取り組んでいる。」 | 36.5 % |
| ②「食育により子どもの頃から食に関する意識が高まっている。」 | 30.8 % |
| ③「働き盛りの世代などでも日常的な運動に取り組んでいる。」 | 23.1 % |
- ほか（単数回答）

問19-2（生きがいが生み出す元気な暮らし）

■「仕事と家庭の両立」が3割超

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---------------------------------------|--------|
| ①「仕事と家庭生活が両立し、心身ともにリフレッシュしている。」 | 33.4 % |
| ②「高齢者が意欲ある限り地域経済を支える担い手として活躍している。」 | 24.7 % |
| ③「豊富な知識や経験を活かして高齢者が地域社会で中心的役割を担っている。」 | 18.0 % |
| ④「農作業や山仕事に携わる高齢者が増えており、自然の中で汗を流している。」 | 14.7 % |
- ほか（単数回答）

問19-3（世界に誇る保健活動・医療）

■「近くの診療所と高度で専門的な医療機関との連携体制」が3割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「近くの診療所と、高度で専門的な医療機関との連携体制が整っている。」 | 30.0 % |
| ②「保健活動や健康診断の受診により一人ひとりが健康管理に取り組んでいる。」 | 27.9 % |
| ③「病気やけがのときには近くの診療所で様々な症状に対して適切な診断を受けられる。」 | 13.5 % |
| ④「早期発見や医療の進歩により、がんによる死亡率が低下している。」 | 12.1 % |
- ほか（単数回答）

テーマ5（教育立県）

問20-1（人間力を養う）

■「基礎的な力に加え、実社会で必要な応用力」が約3割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|--|--------|
| ①「子どもたちは基礎的な知識・技能に加え実社会で必要な応用力も身につけている。」 | 30.6 % |
| ②「子どもたちは郷土に愛着と誇りを持ち、豊かな人間性を備え、将来に希望を持っている。」 | 24.3 % |
| ③「学校では少人数の学級編成などにより児童生徒に応じた指導が行われている。」 | 15.5 % |
| ④「子どもたちは職場体験学習などキャリア教育によって将来への目的意識を身につけている。」 | 11.1 % |
| ⑤「学校と地域が連携し身近な自然や文化を活かした体験型の学習が行われている。」 | 10.8 % |
- ほか（単数回答）

問20-2（行きたくなる学校）

■「先生との信頼関係や相談体制による心の居場所」が約4割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「学校では先生との信頼関係や充実した相談体制により子どもたちの心の居場所が確保されている。」 | 40.2 % |
| ②「学校では、分かる授業、学ぶ楽しさを味わえる授業が行われている。」 | 30.3 % |
| ③「地域が、登下校の際に子どもたちを見守り、声をかけるなど健全な育ちを支えている。」 | 11.0 % |
| ④「不登校などの児童生徒に対して学校や地域などが協力し、継続した支援が行われている。」 | 7.8 % |
- ほか（単数回答）

問20-3（自然の中でたくましく）

■「外遊びや体育などを通じてたくましく健康」が5割超

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「子どもたちは外遊びや体育、スポーツ活動などを通じてたくましく健康に成長している。」 | 53.5 % |
| ②「子どもたちは成長とともに体力や運動能力を向上させている。」 | 18.5 % |
| ③「子どもたちが食に関する正しい知識や食習慣を身につけている。」 | 18.5 % |

ほか（単数回答）

問20-4（個性輝く）

■「地域と連携した自立への支援」が約3割

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|--|--------|
| ①「支援が必要な生徒の能力に応じ、地域と連携した自立への支援が行われている。」 | 32.4 % |
| ②「障害の有無などにかかわらず支援を必要とする子どもへの教育体制が整備されている。」 | 30.6 % |
| ③「特別支援学校等の卒業後も、地域の中で社会参加をしながら生き生きと生活している。」 | 21.7 % |

ほか（単数回答）

問20-5（常に学び続ける）

■「誰もが生涯を通じて学んでいる」が3割超

【未来のめざす姿について、現状との隔たりを感じ最優先で取り組むべきもの】

- | | |
|---|--------|
| ①「誰もが社会に出てからも生涯を通じて学んでいる。」 | 33.8 % |
| ②「地域社会で互いに学び合える環境が整っている。」 | 29.7 % |
| ③「子どもから高齢者まで地域について学習しており、積極的に地域づくりに活かしている。」 | 26.4 % |

ほか（単数回答）